



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アルファポリス

コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理部部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-1602

四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	2,487	35.0	720	36.4	719	41.8	467	40.7
27年3月期第3四半期	1,842	—	528	—	507	—	332	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	96.55	—
27年3月期第3四半期	79.61	—

(注) 1. 当社は、平成26年3月期第3四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成27年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。

2. 当社は、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、平成27年3月期第3四半期の1株当たり四半期純利益を算定しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	5,070	—	3,707	—	73.1	—
27年3月期	4,592	—	3,239	—	70.5	—

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 3,707百万円 27年3月期 3,239百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,300	23.9	901	13.7	900	16.7	574	26.0	118.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期3Q	4,843,700 株	27年3月期	4,843,700 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期3Q	— 株	27年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	4,843,700 株	27年3月期3Q	4,175,439 株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、期末発行株式数及び期中平均株式数につきましては、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）におけるわが国経済は、個人消費においては低調に推移したものの、企業業績は緩やかな改善基調となりました。しかしながら、今後も中国を中心としたアジア近隣諸国の景気減速、世界的な原油価格の下落及び米国の利上げ実施の影響が、今後の米国及び世界経済に与えるインパクトが懸念されており、景気の先行きは予断を許さない状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、依然として厳しい状況が続いており、出版科学研究所によると、2015年の出版物推定販売金額は前年比5.3%減の1兆5,220億円であり、2014年の4.5%減を上回り、過去最大の減少率（金額ベースでは同845億円減）となりました。その内訳は、「書籍」7,419億円（前年比1.7%減）、「雑誌」7,801億円（同8.4%減）となっており、特に「雑誌」が厳しい状況にさらされております。そのような状況に反して、「インターネット発の書籍」の売行きは、引続き好調に推移しており、市場の注目度も益々高まっております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、編集部員を強化することにより、インターネット発の書籍化及びその漫画化を加速させてまいりました。加えて、インターネット上に点在する良質なコンテンツの更なる確保にむけ、ブログ投稿サイトの大幅リニューアルやビジネス記事連載の開始等により、堅調に当社Webサイト上のコンテンツ数を増加させてまいりました。

その他に、平成28年1月からTVアニメ第2クールの放送が開始しております当社主力書籍『ゲート』を盛り上げるべく、『ゲート』スピンオフ漫画の刊行や『ゲート』オリジナルグッズのプレゼントキャンペーン等を実施してまいりました。

これらの活動の結果、当第3四半期累計期間における、出版点数は299点（前年同期比47点増）、新規Web連載漫画本数は25点（同7点増）、及びWebコンテンツ登録数は8,742点（同5,716点増）となりました。また、『ゲート』シリーズ累計発行部数は、ついに370万部（平成28年1月18日時点）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,487,622千円（前年同期比35.0%増）、営業利益は720,107千円（同36.4%増）、経常利益は719,443千円（同41.8%増）、四半期純利益は467,647千円（同40.7%増）となりました。

当社は、出版事業の単一セグメントとなりますが、書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

①ライトノベル

平成27年6月26日に取次・栗田出版販売株式会社が民事再生法適用の申請を行った影響は、徐々に落ち着きを取り戻してまいりました。その結果、当第3四半期会計期間では、ラインナップの関係上、刊行点数は当第2四半期会計期間と比較して1点減少するものの、売上高は当第2四半期会計期間と比較して11,375千円増加し、381,764千円となりました。

②漫画

当社主力書籍『ゲート』のTVアニメ化に伴い、関連書籍の売行きが引き続き好調に推移したことに加え、『ゲート』以外の当社刊行小説のコミカライズ作品の売行きも予想以上に好調に推移し、業績を牽引いたしました。特に、2016年初頭にゲーム化予定である『Re:Monster』は2刷・発行部数4万部、女性向けファンタジー小説『異世界で『黒の癒し手』って呼ばれています』は4刷・発行部数2.8万部となるヒット作品に成長いたしました。

Web連載漫画化も順調に推移しており、当第3四半期累計期間では、新たに25本のWeb連載を開始し、当第3四半期会計期間末のWeb連載漫画本数は54本となりました。特に、当第3四半期会計期間において、新たに連載を開始した作品には『黒の創造召喚師』や『さようなら竜生、こんにちは人生』など、最新話の更新日には、1日で3万人超の読者に閲覧されている作品（注）も含まれており、今後の更なる成長の布石を打つことができました。

（注）Web連載漫画『ゲート』の場合、最新話の更新日には、1日で約4.5万人の読者が閲覧しております。

同タイトルを漫画として出版した場合、発行部数は約13万部となります。

③文庫

当社主力書籍『ゲート』の売行きが好調に推移したことに加え、一般文芸書『居酒屋ぼったくり』の作家である秋川滝美氏の作品『ありふれたチョコレート』シリーズや『いいかげんな夜食』シリーズも業績を牽引したことから、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る結果となりました。

④その他

取扱ジャンル拡大の一環として、力を入れている「ビジネス書」分野において、ビジネス書の大家・西村克己氏によるビジネス書『伸びる会社の社長の条件50』を刊行いたしました。その他、「アルファポリス・第8回恋

愛小説大賞」大賞受賞作『コンカツ！』もエンタメ恋愛小説として刊行することができ、ジャンル拡大に向けた取り組みが徐々に形となってあらわれてきました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ329,630千円増加し、4,847,356千円となりました。これは主に、売上高の増加に伴い売掛金が増加（前事業年度末比226,796千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ147,966千円増加し、222,806千円となりました。これは主に、無形固定資産が増加（前事業年度末比104,267千円増）したことによるものであり、その主な要因はスマホ用アプリ等のソフトウェアの制作費であります。また、『ゲート』のTVアニメ制作委員会に対して出資したことに伴い、投資その他の資産も増加（同45,071千円増）しております。

② 負債

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ42,203千円増加し、1,294,211千円となりました。これは主に、買掛金が減少（前事業年度末比21,654千円減）する一方で、売上高の増加に伴い返品調整引当金（同70,916千円増）、及び未払金（同74,497千円増）が増加したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ32,254千円減少し、68,339千円となりました。これは全て、借入金の返済に伴い長期借入金が増加したことによるものであります。

③ 純資産

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ467,647千円増加し、3,707,611千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成28年1月20日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。今後、業績予想の数値に影響を及ぼす事態が生じた場合は、すみやかに開示を行います。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,475,383	2,501,707
売掛金	1,842,596	2,069,393
製品	121,406	158,211
仕掛品	39,469	71,560
その他	38,870	46,484
流動資産合計	4,517,726	4,847,356
固定資産		
有形固定資産	13,033	11,660
無形固定資産	-	104,267
投資その他の資産	61,806	106,878
固定資産合計	74,839	222,806
資産合計	4,592,565	5,070,162
負債の部		
流動負債		
買掛金	111,468	89,813
1年内返済予定の長期借入金	61,312	47,882
未払金	359,377	433,874
未払法人税等	194,175	133,640
賞与引当金	12,574	36,188
返品調整引当金	433,175	504,091
その他	79,925	48,720
流動負債合計	1,252,008	1,294,211
固定負債		
長期借入金	98,915	66,661
繰延税金負債	1,678	1,678
固定負債合計	100,593	68,339
負債合計	1,352,601	1,362,550
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	1,522,315	1,989,962
株主資本合計	3,239,964	3,707,611
純資産合計	3,239,964	3,707,611
負債純資産合計	4,592,565	5,070,162

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	1,842,533	2,487,622
売上原価	589,786	972,729
売上総利益	1,252,746	1,514,892
返品調整引当金戻入額	312,814	433,175
返品調整引当金繰入額	389,637	504,091
差引売上総利益	1,175,923	1,443,975
販売費及び一般管理費	647,912	723,868
営業利益	528,010	720,107
営業外収益		
受取利息	100	247
中小企業倒産防止共済前納減額金	66	53
その他	11	4
営業外収益合計	177	304
営業外費用		
支払利息	1,210	942
株式公開費用	18,207	-
その他	1,331	26
営業外費用合計	20,750	968
経常利益	507,438	719,443
特別利益		
保険解約返戻金	-	30,593
特別利益合計	-	30,593
税引前四半期純利益	507,438	750,036
法人税等	175,015	282,388
四半期純利益	332,422	467,647

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。